



医療法人喬成会 看護小規模多機能型 居宅介護事業所ナースイン花ぴりか

症 例 概 要 利用者氏名：男性 80代 要介護2

病名：前立腺癌、骨転移、転移性肺癌、自律神経失調症、うつ病

経過：令和6年8月頃、妻の認知症による被害妄想で、不眠、嘔吐、食欲不振にて体重減少があり精神科入院となりうつ病診断。入院中に腰部～下肢痛出現し、総合病院受診すると、前立腺癌、肺・骨転移がみつかり、予後1年以内とのIC。自宅退院が難しく、看護小規模多機能ナースイン花ぴりかを利用開始となる。

利用当初は膀胱留置カテーテルがあり、車椅子・歩行器使用、精神的な落ち込みがある中でも、もともと努力家で勤勉であり、ご本人の得意なことを生かして、また精神的な負担にならないよう歩行訓練、作業療法、地域活動をプログラムし実施する。

体力と気力を取り戻し、独歩可能、カテーテルも抜去、日々社会貢献をし、余命宣告の期限を越し、生き生きと過ごすことができるようになった症例。

内 容

令和6年8月頃、妻の認知症による被害妄想の悪化と、同居されていた三女の精神症状の出現により、家事・介護の全てを一人で背負う生活となりました。その負担は大きく、嘔吐や食欲不振、不眠などの体調不良が続き、精神科でうつ病と診断され入院となりました。

入院中には腰～下肢痛が悪化し車椅子生活となり、総合病院で前立腺癌と肺・骨転移、予後1年との宣告を受けられました。治療と精神科フォローが続く中、在宅生活は困難と判断され、ナースイン花ぴりかのショートステイを利用し退院されました。

利用開始時は「自分でやらなければ」という焦りと落ち込みの中で心のバランスを保つことが難しく、右下肢痛や筋力低下、カテーテル管理など生活には多くの制限がありました。スタッフは氏の気持ちに丁寧に寄り添い、安心して思いを吐き出せる環境づくりに努めました。その積み重ねにより、少しづつ抱え込みすぎない心の整え方を身につけ、前向きな気持ちを取り戻されました。

かつて製本の仕事をされていた氏は、その確実で丁寧な手仕事を活かし、メモ帳づくりやレクリエーション物品制作、雑巾縫い、調理レクの担当、ご利用者への傾聴ボランティア、地域の交通安全運動やゴミ拾いなど、多くの社会貢献活動に挑戦されました。これらの活動は心の支えとなり、体力向上にもつながり、ついにカテーテル抜去と独歩での生活が実現しました。

その後は自ら「やりたいこと」を見つけられるほど心身が安定し、職員との釣りや、庭の球根をナースインの花壇に植えるなど、明日への楽しみを感じられるようになりました。来春にはその花を皆で楽しみたいと願われる姿は、回復の大きな証でした。

「ナースインのおかげで元気になれた」という氏のお言葉は、私たち職員にとっても大きな励みです。現在、身の回りのことを自立して行えるまでに回復され、ナースインを卒業してサ高住花びりかへ移行し、社会貢献活動も継続されています。

氏が取り戻された前向きな力、そして“自立したい”という想いを実現されたその歩みこそ、私たちが大切にしたい「キラキラ介護」の姿であり、スタッフ一同の誇りです。